様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年３月３１日現在

機関番号：６２６１８
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０５２０４３０
研究課題名（和文）明治期国語調査委員会資料と『日本言語地図』『方言文法全国地図』による分布解釈研究
研究課題名（英文）Linguistic Geography Research through the reports by the National Language Survey Committee in Meiji period, "The Linguistic Atlas of Japan", and "The Grammar Atlas of Japanese Dialects"
研究代表者　吉田　雅子（YOSHIDA Noriko）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト奨励研究員
研究者番号：50399490

研究成果の概要（和文）：日本全国規模の方言調査資料として，明治期の国語調査委員会による『音韻調査報告書』『音韻分布図』『口語法調査報告書』『口語法分布図』，国立国語研究所による『日本言語地図』『方言文法全国地図』を用いて，方言分布の通時分析と総合的解釈を行った．また，国語調査委員会に関する資料探索調査により「音韻口語法取調第二次調査」の報告書が各地に残されている可能性を指摘した．研究成果は報告書，ウェブサイトにより広く一般に公開した．

研究成果の概要（英文）：This paper investigates linguistics geography research through "The Phonology Research Report", "The Phonology Atlas", "The Colloquial Method Research Report", "the Colloquial Method Atlas" by the National Language Survey Committee in Meiji period, "The Linguistic Atlas of Japan"(LAJ), and "The Grammar Atlas of Japanese Dialects"(GAJ) by The National Institute for Japanese Language. The paper focuses on diachronic analysis and comprehensive explication of nationwide Japanese dialect distribution. We designated possibility of finding "The Second Report" by the National Language Survey Committee in Meiji period in every prefecture through searching for documents about the Committee. The result of the research was published in book form, and also, we started up the web site to open it of the research to the public.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
総　計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・日本語学
キーワード：方言，方言学，方言地理学，言語地理学，方言地図，言語地図，文献方言学

１．研究開始当初の背景

日本で実施された全国規模の方言調査には次のようなものがある．一つは明治期の国語調査委員会が行った全国の音韻および口語法の調査であり，その結果は『音韻調査報告書』『音韻分布図』(1905(明治 38)年刊行)，『口語法調査報告書（上・下)』『口語法分布図』(1906(明治 39)年刊行）という３冊の報告書と２冊の言語地図にまとめられている．もう一つは国立国語研究所が行った全国の

語彙および文法の調査であり，その結果は『日本言語地図』（全６集，1966(昭和41)-1974(昭和49)年刊行),『方言文法全国地図』(全６集，1989(平成1)-2006(平成18)年刊行）にまとめられている．

国語調査委員会と国立国語研究所が行ったこれらの全国方言調査の間には，約60～80年の開きがあるが，調査項目には一致するものや趣旨を同じくするものが多く，経年調査ともとらえられるため，通時分析の資料データとなる．それぞれの研究事業が実施された時代背景を反映して，制作目的や調査方法や製図方法は異なるが，共通する特色は，一機関によって一時期に一様な全国調査を実施したこと，そのことによるデータ量の多さ，調査データが全て公開されていることなどである．

歴代，全国規模の方言調査を実施し，音韻・語彙・文法の各分野にわたって全国版言語地図を刊行しているという点で，日本は世界に類を見ない．全国方言調査実施の学史的背景や調査結果が社会に与えた影響なども分析要素に取り入れつつ，通時的にも分野的にも多大な方言調査資料を用いて，研究が実施できると考えた．

２．研究の目的

本研究は，日本全国規模の方言調査資料『音韻調査報告書』『音韻分布図』『口語法調査報告書』『口語法分布図』『日本言語地図』『方言文法全国地図』を用いて，方言分布の通時分析と総合的解釈を行うことを目的とするもので，これまで行われた全国方言調査の学史的社会的意義をふまえ，その調査データを用いて分布・解釈研究を行い，今後実施される全国方言調査・言語地図作成に備え寄与することをめざした．

３．研究の方法

(1)明治期国語調査委員会に関する，未見・未入手資料の探索調査を行う．

(2)対象資料の記述研究とデータベース化を行う．

①全国方言調査・言語地図の学史的社会的研究概論の記述

②『音韻調査報告書』『口語法調査報告書（上・下)』のデータベース化

(3)収集・電算化したデータの分布分析と解釈研究を行う．

①『口語法分布図』と『方言文法全国地図』を対照させた37項目148枚の資料地図の作成と分布分析

②『口語法分布図』と『方言文法全国地図』を比較しての37項目の解釈研究

③『音韻分布図』と『日本言語地図』を対照させた３項目12枚の資料地図の作成と分布分析

④『音韻分布図』と『日本言語地図』を比較しての３項目の解釈研究

(4)報告書（冊子＋CD-ROM）を作成し，ウェブページで公開する．

４．研究成果

研究作業と分析の結果得た知見と成果について，主要なものを以下にまとめ述べる．

(1)明治期国語調査委員会に関する，未見・未入手資料の探索調査は，のべ29日人により実施し，全国の図書館，資料館，博物館等への出張を行った．また，出張を伴わない形でも資料収集は随時行い，各図書館，博物館等の蔵書資料目録から探索し，国立情報学研究所図書館間文献複写サービス（NACSIS-ILL）を利用したり，個別に申し込みをしたりしながら，資料収集を進めた．

この作業を通して,『音韻調査報告書』『音韻分布図』『口語法調査報告書』『口語法分布図』刊行以後に計画された，「音韻口語法取調第二次調査」の報告書が各地に残されている可能性を見いだした．これら第二次調査の報告書は関東大震災で資料が焼失したが，岩手県，長野県等でそれらの報告書の草稿・複本類を発見し，他の地域においても同様の発見がありうる可能性を指摘した（竹田晃子2008（５．主な発表論文等〔雑誌論文〕⑧)).

本研究が主対象とした明治期国語調査委員会資料はいわゆる「第一次調査」にあたるものであるが，今後は「第二次調査」の資料探索を行い，「音韻口語法取調第二次調査」報告書の復元を行う研究を構想している．

(2)「文献」の範囲を広くとらえた新たな「文献方言学」を構想することの必要性を論じた．

日本語方言における伝統的方言の急激な衰退により伝統的方言の臨地調査が不可能となれば，過去の方言調査資料における言語事象の分析を研究の主流とせざるを得なくなり，過去の方言調査資料の発掘が重要度を増す．「文献」というと，国語学では上代から近代にかけての古典を指す場合が多く，「文献方言学」といえば古典に方言の用例を求めて方言の歴史を研究する分野をさすのがこれまでの方言研究だった．しかし，明治・大正・昭和を経て平成も20年を過ぎ，明治・大正・昭和初期はじきに現代から十分な隔たりをもってとらえられる過去となり，その時代の方言調査資料も古典的資料として扱われるようになるであろうことを鑑み，新たな「文献方言学」を構想した．

そのための資料探索の手法を，明治期国語調査資料委員会資料の発掘を中心とした，マニュアルとして記述した．マニュアルの概要は以下の通りである．①何を探すかー明治・大正・昭和初期の資料の種類と状態，②どこ

にあるかー目標物を探す場所，③手がかりは何かー目標物の属性情報，④入手方法.

(3)明治期の方言研究における「東西対立」発見について，研究史上での位置づけを論じた.

国語調査委員会に所属した大槻文彦と新村出による「東西語法境界線図」類３葉と『口語法調査報告書』『口語法分布図』とを対照し，東西語法境界線の異同の様相とその特色を明らかにした．また，大槻文彦と新村出が国語調査委員会に関わった事案を，大槻文彦「国語調査委員会日記」,『新村出全集』,『日本帝国文部省年報』,『官報』等の資料によって時系列にまとめ，その中で「東西語法境界線図」類が用いられた形跡をたどり，国語調査委員会での調査が大槻，新村の研究に及ぼした影響を考察した（竹田晃子 2011（５．主な発表論文等〔雑誌論文〕③)).

「東西語法境界線図」類３葉を対照することで，３葉の成立過程については，次の順をたどることを推定した（竹田晃子 2011（５．主な発表論文等〔雑誌論文〕②))).

０．新村出による「祖図」にあたるもの
１．大槻文彦「東西語法境界線概要図」(一関市博物館蔵)
２．新村出「東西語法境界概要図」(雑誌『方言』3-6 の口絵写真)
３．新村出自筆「東西語法境界線概略－古代東語區域對照」

(4)収集資料のデータベース作成のため，作業補助者によるデータ整理と電算データ化作業を行った．研究期間中，のべ 238 日人による作業を行った．作成したデータベースは，公開用に整形を進め，今後ウェブサイト公開したり，希望者に電子データで配布する準備を進めている.

(5)方言資料のデータベース化を進める中で，複数の方言資料間の比較が重要な課題となり，多様な方言資料のデータベースを統一的に検索・分析するためのシステムを設計し，試作版を開発した（鑓水兼貴 2011（５．主な発表論文等〔雑誌論文〕④)).

システムの特徴として以下の４点が挙げられる．第一点「フォーマットの集積」．汎用的なデータ書式を志向せず，各資料のフォーマット集とし，元の資料を変更せずシステム側で変更することで，書式の記述方法の複雑化や著作権の問題を回避している．第二点「検索結果の地図化」．検索で選択された資料の対象地域を地図化することで分析を援助する．第三点「資料横断的な検索」．表形式データが多い言語地理学的資料，テキスト形式データが多い談話資料といったデータ形式の違いを越える，複数の検索方法を実装した．第四点「表記の『あいまい検索』」．元の資料を変更しない場合の表記の不統一に備え，検索機能の実装にあたっては語形間の類似度測定等を用いて類似語形の検索を行う.

このシステムを用いることによって，方言資料の分析を地理的視点から重層的に行うことが可能となる.

(6)収集・電算化したデータの分布分析と解釈研究を進め，文法事象については，『口語法分布図』(以下「『分布図』) と『方言文法全国地図』(以下「GAJ」) を比較対照し，以下の知見を得た.

『分布図』と GAJ とで調査項目が一致すると見なしうる以下の 16 項目を分析対象とし，『分布図』の各図を GAJ 式に作り直して，分布を比較対照した.

比較対照図【口（＝『分布図』）番号：GAJ 地図番号】
・未来ノ云ヒ方【口 1:GAJ109】【口 3:GAJ110】【口 4：GAJ111】
・打消ノ云ヒ方【口 6：GAJ83】【口 7：GAJ84】
・命令ノ云ヒ方【口 13:GAJ86】【口 15:GAJ90】【口 16：GAJ91】
・条件ノ云ヒ方【口 18：GAJ128】
・活用ノ形【口 21:GAJ92】【口 23:GAJ102,103】【口 28：GAJ61,126】【口 29：GAJ65】【口 32：GAJ68,129】【口 36：GAJ117,121】【口 37：GAJ173,174】

詳細に見れば図毎に違う面はあるが，概括すると，口語法調査の文法範疇でいう「打消，命令，条件，活用」の項目で『分布図』と GAJ との差が大きく経年変化が見て取れ，一方「未来」の項目で差が小さい．このことから，口語法調査から GAJ 調査の間には，活用のような形態的側面・システムに関わる部分での言語変化が大きいということを指摘し，モダリティが関わる部分の変化はそれ以降，GAJ 調査以後の時期により多く見られるであろうことを推測した．また，『分布図』と GAJ 両図を比較すると，言語変化が先んじて起こっている地点が見いだされ，両図の比較により新方言形の発生分布地域をとらえられるものがあることを指摘した（吉田雅子 2011（５．主な発表論文等〔雑誌論文〕①)).

(7)収集・電算化したデータの分布分析と解釈研究を進め，その成果の一部を，当該課題用ウェブサイトにて随時公開した.
http://socling.org/kogoho/

また，研究成果をまとめた報告書として『明治期国語調査委員会資料と『日本言語地図』『方言文法全国地図』による分布解釈研究』を刊行した．以下は，その目次である.

【０．研究の概要】
・研究の目的（吉田雅子）

・研究の経過（吉田雅子）
・期間中の研究成果一覧（吉田雅子（編））
【１．分布分析と解釈研究】
・『口語法分布図』と『方言文法全国地図』－本研究の窓口として－（吉田雅子）
・『口語法分布図』と『方言文法全国地図』の対照図（吉田雅子）
・『口語法分布図』と『方言文法全国地図』の比較対照による言語変化の諸相（吉田雅子）
【２．関連資料の分析】
・明治・大正・昭和初期の方言調査資料の発掘－新たな「文献方言学」の前提として－（竹田晃子）
・明治期国語調査委員会による音韻口語法取調の概要と第２次調査資料の分析（竹田晃子）
・新村出自筆「東西語法境界線概略」の成立再考－新村出と大槻文彦による３枚の図をもとに－（竹田晃子）
・東西方言境界線の発見－『口語法調査報告書』と「東西語法境界線図」類の対照から－（竹田晃子）
・「關東及隣接縣方言調査書」について－紹介と分析－（吉田雅子）
【３．資料データベース化と活用】
・Language Change from the Viewpoint of Distribution Patterns of the Standard Japanese Forms (Kanetaka YARIMIZU)
・『方言文法全国地図』における話者の年齢差にあらわれる文法変化（鑓水兼貴）
・多様な方言資料を統一的に扱うための検索システムの開発（鑓水兼貴）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 43 件）
①吉田雅子，『口語法分布図』と『方言文法全国地図』の比較対照による言語変化の諸相，日本語学会 2011 年度秋季大会予稿集，査読無，2011，pp163-170
②竹田晃子，新村出自筆「東西語法境界線概略」の成立再考－新村出と大槻文彦による 3 枚の図をもとに－，社会言語科学会第 28 回大会発表論文集，査読無，2011，pp80-83
③竹田晃子，東西方言境界線の発見－『口語法調査報告書』と「東西語法境界線図」類の対照から－，日本方言研究会第 93 回研究発表会発表原稿集，査読無，93 号，2011，pp57-64
④鑓水兼貴，多様な方言資料を統一的に扱うための検索システムの開発，日本語学会 2011 年度秋季大会予稿集，査読無，2011，pp189-192
⑤Kanetaka YARIMIZU，Language Change from the Viewpoint of Distribution Patterns of Standard Japanese Forms, Corpus-based Analysis and Diachronic Linguistic，査読無，Vol.3，2011，pp265-284
⑥鑓水兼貴，『方言文法全国地図』における話者の年齢差にあらわれる文法変化，日本語学会 2010 年度秋季大会予稿集，査読無，2010，pp215-222
⑦吉田雅子，「關東及隣接縣方言調査書」について－紹介と分析－，山梨ことばの会会報，査読無，15 号，2009，pp1-19
⑧竹田晃子，明治期国語調査委員会による音韻口語法取調の概要と第２次調査資料の分析，日本方言研究会第 87 回研究発表会発表原稿集，査読無，87 号，2008，pp61-68

〔学会発表〕（計 15 件）
①吉田雅子，『口語法分布図』と『方言文法全国地図』の比較対照による言語変化の諸相，日本語学会 2011 年度秋季大会，2011 年 10 月 23 日，高知大学
②鑓水兼貴，多様な方言資料を統一的に扱うための検索システムの開発，日本語学会 2011 年度秋季大会，2011 年 10 月 23 日，高知大学
③竹田晃子，東西方言境界線の発見－『口語法調査報告書』と「東西語法境界線図」類の対照から，日本方言研究会第 93 回研究発表会，2011 年 10 月 21 日，高知大学(高知城ホール)
④竹田晃子，新村出自筆「東西語法境界線概略」の成立再考－新村出と大槻文彦による 3 枚の図をもとに－，社会言語科学会第 28 回大会，2011 年 9 月 18 日，龍谷大学
⑤鑓水兼貴，『方言文法全国地図』における話者の年齢差にあらわれる文法変化，日本語学会 2010 年度秋季大会，2010 年 10 月 24 日，愛知大学
⑥YARIMIZU Kanetaka，Language Change from the Viewpoint of Distribution Patterns of the Standard Japanese Forms，東京外国語大学グローバルＣＯＥ国際シンポジウム ″Corpus Analysis and Diachronic Linguistics″，2010 年 3 月 2 日，東京外国語大学
⑦竹田晃子，明治期国語調査委員会による音韻口語法取調の概要と第２次調査資料の分析，日本方言研究会第 87 回研究発表会，2008 年 11 月 1 日，岩手大学

〔図書〕（計 10 件）
①吉田雅子（共著），東京堂出版，県別罵詈雑言辞典，2011，pp84-93，pp210-377
②鑓水兼貴（共著），東京堂出版，県別罵詈雑言辞典，2011，pp52-55，pp61-64，pp210-376

③吉田雅子（共著），朝倉書店，日本語ライブラリー　方言学，2011，pp32-55
④竹田晃子，吉田雅子，国土社，まんがで学ぶ方言，2009，119p
⑤吉田雅子（共著），三省堂，都道府県別全国方言辞典　CD 付き，2009，pp138-145，pp389-430
⑥鑓水兼貴（共著），三省堂，都道府県別全国方言辞典　CD 付き，2009，pp90-97
⑦吉田雅子（共著），フレーベル館，方言と地図，2009，pp41-51
⑧竹田晃子（共著），フレーベル館，方言と地図，2009，pp26-33
⑨吉田雅子（共著），小学館，小学館ことばのえじてん，2008，pp296-350

〔その他〕
ホームページ等
「明治期国語調査委員会資料と『日本言語地図』『方言文法全国地図』による分布解釈研究」
http://socling.org/kogoho/

６．研究組織
(1)研究代表者
吉田　雅子（YOSHIDA Noriko）
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト奨励研究員
研究者番号：50399490

(2)連携研究者
竹田　晃子（TAKEDA Koko）
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・非常勤研究員
研究者番号：60423993
鑓水　兼貴（YARIMIZU Kanetaka）
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・理論・構造研究系・非常勤研究員
研究者番号：20415615